

## トルコ語とウイグル語の関係節における受身形 The Passive Form in Relative Clauses in Turkish and Uighur

アブドゥラハマン ギュロル

Abdurrahman GUROL

### 1. はじめに

本稿では、まず、トルコ語とウイグル語における受動態の一般的な特徴や用法などを形態的及び統語論的に検討し、更に、自他動詞の受動化と非人称受動態 (Impersonal passive) という現象を関係詞節の観点から対照研究を行いながら分析したいと思う。

よく知られているように、トルコ語では、他動詞も自動詞も受動化の接尾辞「-l, -n」の付加によって受動化できる。ウイグル語でも同じ受動化の接尾辞が使われるが、ウイグル語の受動態、特に自動詞の受動化に関する先行研究はごくわずかしかない。例えば、ウイグル人の研究者Tömür (1987)、(2003)とSeper (2002)では、他動詞の受動化に限られると述べられており、自動詞の受動化については述べられていない。更に、Milikadam (2004, p.3)の修士論文では、「ウイグル語では、受動化の接尾辞は自動詞につけることができないが、形態的な方法でイディオムの形成をする。限られた数の自動詞に受動化の接尾辞をつけることによって、元の動詞と語彙的な意味が異なる別の動詞を作るのである。これらの派生動詞は受動の意味を表さず、イディオマティックな意味になる」と述べているが、本稿では、様々なウイグル語のデータに基づいて、ウイグル語でも自動詞の受動化が可能であることを示す。

### 2. トルコ語の動詞の特徴

トルコ語の受動態を検討する前に、まずトルコ語の動詞の特徴を見る必要がある。トルコ語の動詞にも他動詞と自動詞という二種類があり、自動詞は更に「非能格自動詞」(unergative)と「非対格自動詞」(unaccusative)に分けられる。前者には、動作主あるいは行為者句の意志的・意図的な動きがみられるが、後者にはそのような意志性は現れない。Nakıpoğlu (2001, pp129-150)はトルコ語の自動詞を、動作が内部から扇動される内部扇動と外部から扇動される外部扇動に分類している。そしてそれにより非能格性と非対格性が決まると主張している。Nakıpoğluのこの分類によると、動詞は下記のように分類できる。

(表1)

II

1	2	3	4	5
Atla (飛び降りる)	Agla (泣く)	Öl (死ぬ)	Büyü (育つ)	Bat (沈む)
Çalış (働く)	Gül (笑う)	Boğul (溺れる)	Buna (ほける)	Çürü (腐る)
Yüz (泳ぐ)	Hapşır (クシャミする)	Doğ (生まれる)	Yaşlan (年をとる)	Don (凍る)
Koş (走る)	Hıçkır (しゃっくりをする)	Bayıl (気絶する)		Eri (溶ける)
Konuş (話す)	Horla (いびきをかく)			Sol (しおれる)
oyna (遊ぶ)	Uyu (寝る)			Kırıl (割れる)
Yürü (歩く)	Öksür (せきをする)			Patla (爆発する)
Düşün (考える)	Kızar (赤くなる)			Karar (黒くなる)

Unergative

Unaccusative

Nakipoğlu (2001)

### 3. トルコ語の受動態の形態論的な特徴

トルコ語では、受動表現を表す接辞「-l, -n」を動詞語幹につけることによって受動態の派生動詞ができる。Ergin (1962)によると、本来受動接辞として主に「-l」が用いられて、「-l」が付けられない動詞に後から「-n」が付加されるようになった。しかし、これらの接辞付加用法は恣意的ではなくて、母音そして子音調和と関係がある。つまり、動詞語幹が「l」以外の子音で終わる場合は接辞の「-l」が母音調和に従う適当な母音と付加され、動詞語幹が「l」または母音で終わる場合は接辞の「-n」が付加されるという規則がある。

(表2)

動詞語幹が「l」以外の子音で終わる動詞

sev (好む)他 → sev-il (好まれる)

vur (打つ)他 → vur-ul (打たれる)

dur (止まる)自 → dur-ul (止まられる)

inan (信じる)他 → inan-ıl (信じられる)

動詞語幹が子音の「l」で終わる動詞

çal (盗む)他 → çal-ın (盗まれる)

kal (泊まる)自 → kal-ın (泊まられる)

動詞語幹が母音で終わる動詞

terle (汗をかく)自 → terle-n (汗がかかれる)

oku (読む)他 → oku-n (読まれる)

yolla (送る)他 → yolla-n (送られる)

sil (消す)他 → sil-in (消える)

上の表で見られるようにトルコ語では、他動詞も自動詞も適切な接辞の付加によって受動化できる。

### 4. ウイグル語の受動態の形態論的な特徴

Tömür (1987)によると、ウイグル語の受動表現における動詞には、動詞語幹に受身の意味を表す接辞「-l, -n」がついた派生動詞が用いられる。動詞語幹に受身の接辞を付ける時は、次のような規則がある。

(表3)

動詞語幹が「l」で終わるときは、「-n」<sup>1</sup>が付く

al (取る) → el<sup>2</sup>-in (取られる)

böl (分ける) → böl-ün (分けられる)

動詞語幹が「l」以外の子音で終わるときは、「-il, -ul, -ül」が付く

yaz (書く) → yez-il (書かれる)

kör (見る) → kör-ül (見られる)

ur (打つ) → ur-ul (打たれる)

動詞語幹が母音で終わるときは、「-l, -n, -yul, -yil」が付く

yasa (作る) → yasa-l (作られる)

de (言う) → de-yil (言われる)

ula (つなげる) → ula-n (つなげられる)

yu (洗う) → yu-yul (洗われる) Milikadam (2004)

動詞語幹が母音で終わる能動形の動詞を受身形に変えるとき、「-l」にするか「-n」にするかは規則がなく、語彙的に決定されている。

Milikadam (2004)では、ウイグル語における自動詞の受動化は不可能であると述べられているが、ウイグル語における自動詞の中でも特に非能格自動詞の受動化は可能である。下記の自動詞の受動化については「非人称受動構文」で詳しく述べる。

(表4)

kül (笑う) → kül-ün (笑われる)

uhla (寝る) → uhli-n (寝られる)

kir (入る) → kir-il (入られる)

üz (泳ぐ) → üz-ül (泳がれる)

bar (行く) → ber-il (行かれる)

kon (泊まる) → kon-ul (泊まられる)

kel (来る) → kel-in (来られる)

öt (通る) → öt-ül (通られる)

çık (出る) → çık-ıl (出られる)

işen (信じる) → işen-il (信じられる)

oltur (座る) → oltur-ul (座られる)

aççiklan (怒る) → aççiklin-il (怒られる)

yügür (走る) → yügür-ül (走られる)

## 5. トルコ語の受動態の統語論的な特徴

トルコ語では他動詞も自動詞も受動化できる。しかし、受動態の特徴として一般に知られている目的格から主格への昇格というプロセスも、もともと目的語を持たない自動詞の受動態の場合では

1 受身接辞「-n」は、直前の母音の性質により、以下の四つの異形態のうち、一つが選択される：-n, -in, un, ün

2 逆行同化表現によってaが<sup>e</sup>に変わる。

異なってくる。まず他動詞の受動化プロセスを見てみよう。

	N 1	N 2	V		N 2	∅	V-pass
(1)	a. Ayşe	elbise-yi	yıka-dı	b. Elbise			yıka-n-dı
	アイシエ	服-対格	洗う-過去形	服	∅		洗う-受身形-過去形
	“アイシエは服を洗った”			“服が洗われた”			

(1 b)において動詞が受動態に変形したため、他動詞能動文(1 a)の目的語N 2が目的格の位置から主格の位置に昇格している。能動文の主体であるN 1は受動化によって消え去る。しかし、∅で表した場所にN 1 tarafından (～によって)という後置詞句の挿入も可能である。トルコ語話者は口語の受動構文でN 1 tarafındanをまれにしか使わないが、文語では動作主を強調するために自然に使われている。

c. Elbise	Ayşe	tarafından	yıka-n-dı
服	アイシエ	によって	洗う-受身形-過去形
“服がアイシエによって洗われた”			

Balpınar (1983)はN 1 tarafındanが挿入された受動構文をTrue passivesと呼び、(1 b)のようにN 1 tarafındanが現れない、つまり動作主が消え去った受動構文をAgentless passives (行為者句不在受動構文)と呼んでいる。本稿でも同じ用語を使うことにする。例(1 a)が能動文で、(1 b)が行為者句不在受動文そして(1 c)がTrue passivesである。

## 6. ウイグル語の受動態の統語論的な特徴

ウイグル語の他動詞の受動化プロセスを検討すると、トルコ語のプロセスと全く同じであることがわかる。下記の例でこのプロセスを見てみよう。

	N 1	N 2	V		N 2	∅	V-pass
(2)	a. Muellim	Äli-ni	mahti-di	b. Äli			mahta-l-di
	先生	アリ-対格	ほめる-過去形	アリ	∅		ほめる-受身形-過去形
	“先生はアリをほめた”			“アリがほめられた”			

トルコ語と同様に、(2 b)において動詞が受動態に変形したため、他動詞能動文である(2 a)の目的語であるN 2が目的格の位置から主格の位置に昇格している。能動文の主体であるN 1は受動化によって消え去る。しかし、∅で表した場所にN 1 täripindin (～によって)という後置詞句の挿入も可能である。ウイグル語の受動文において、後置詞によって動作主が表示される場合、täripindin (～によって)の他にbilän(～で、～によって)とarkilik(～で、～を通じて、～を通して)があるが、一般

的に使われるのは *täripindin* (～によって) である。ウイグル語話者は口語の受動構文で *N 1* *täripindin* をまれにしか使わないが、文語では動作主を強調するために自然に使われる。(cf. *Milikadam 2004*)

c. *Äli muellim täripindin mahta-l-di*

アリ 先生 によって ほめる-受身形-過去形

“アリが先生によってほめられた” *Milikadam (2004)*

例(2 a)が能動文で、(2 b)が行為者句不在受動文そして(2 c)が<sup>g</sup>True passivesである。

## 7. 非人称受動態

トルコ語の受動文の中で独特な特徴を持っていると言われる非人称受動は最初に *Perlmutter (1978)* によって関係文法的な側面から研究されて、その後、*Biktimir (1986)*、*Özkaragöz (1986)*、*Nakıpoğlu (2001)* でも様々な側面から研究されてきたが、この現象について *Özbek (2004)* は次のように述べている。

「トルコ語においては非人称受動構文が他動詞文はもちろんのこと二つに下位分類された自動詞構文からも派生できる。トルコ語の非人称受動態は形態的に動詞語幹に「Pass + Aor」が累加される形で、意味的に特定の人物以外に一般的に誰によっても「される」あるいは否定形の場合は誰によっても「されない」という事柄を表すものである。受動構文には動作主が現れないが、他の時制を持つ受動構文は意味的にもともと存在している特定の動作主を隠しているので「行為者句不在受動態」である。」(cf. *Özbek 2004, p.20*)

上記に述べられた説明を踏まえて、トルコ語の非人称受動構文の例をウイグル語と対照しながら考察したいと思う。

### 7.1. 自動詞の非人称受動化

#### 7.1.1. 非能格自動詞文の非人称受動態

(3) a. *Haftason-lar-ı göl çevre-sin-de koş-ul-ur*

週末-複数形-三単所 湖 周辺-三単所-位置格 走る-受身形-アオリスト

“週末は湖の周辺で走られる”

b. *Bazı insan-lar haftason-lar-ı göl çevre-sin-de koşar*

ある 人-複数形 週末-複数形-三単所 湖 周辺-三単所-位置格 走る-アオリスト

“ある人達は週末に湖の周辺で走る” *Nakıpoğlu (2001)*

(4) a. *Havuz tertemiz ol-du, yüz-ül-ür*

プール きれい なる-過去形、 泳ぐ-受身形-アオリスト

“プールがきれいになった、そこで誰でも泳げる”

- b. Havuz tertemiz ol-du, herkes yüzer.  
 プール きれい なる-過去形、 皆 泳ぐ-アオリスト  
 “プールがきれいになった、そこで皆泳ぐ”

(3 b)から(3 a)そして(4 b)から(4 a)への受動化において、両者は一般的なことを述べて、Ntarafındanが追加できないものの、受動態+アオリストの形を持っているので非人称受動態であると言える。自動詞の非人称受動化をウイグル語に当てはめてみると、非能格自動詞文の非人称受動化が可能であることがわかる。非能格自動詞文の非人称受動化が文法的に可能であるのに、ウイグル語話者は口語の自動詞の非人称受動化をまれにしか使わない。自然な言い方は能動形である。

- (5) a. Turfan-da Buyluk digen jay nahayiti guzel bolup,  
 トウルフアン-位置格 ブユルク という 場所 とても 綺麗 であって  
 bu yer-de otur-ul-idu, sohpet kıl-ın-idu, tamak yi-yil-idu.  
 この場所-位置格 座る-受身形-アオ<sup>3</sup> 話し する-受身形-アオ ご飯 食べる-受身形-アオ  
 Bu Turfan-in bir adetidir<sup>4</sup> (ウイグル語)  
 これ トウルフアン-属格 一つ 習慣

“トウルフアンのブユルクという場所はとても綺麗で、この場所で座ったり、話し合ったり、食事したりする。これはトウルフアンの一つの習慣である”

- b. Turfan-da Buyluk digen jay nahayiti guzel bolup,  
 トウルフアン-位置格 ブユルク という 場所 とても 綺麗 であって  
 bu yer-de bazı adem-ler otur-idu, sohpet kıl-idu,  
 この場所-位置格 ある人-複数形 座る-アオ 話し する-アオ  
 tamak yi-yidu. Bu Turfan-in bir adetidir  
 ご飯 食べる-アオ これ トウルフアン-属格 一つ 習慣

“トウルフアンのブユルクという場所はとても綺麗で、この場所である人達は座り、話し合い、食事する。これはトウルフアンの一つの習慣である”

(5 a)のような例が他にもある。

- (6) a. Yaz veki bu köl-de üz-il-idu b. Herkim yaz veki bu köl-de üz-idu  
 夏の時期 この湖-位置格 泳ぐ-受身形-アオ 皆 夏の時期 この湖-位置格 泳ぐ-アオ  
 “夏の時期はこの湖で泳がれる” “夏の時期は皆この湖で泳ぐ”

- (7) a. Heptehir-ler-de orman-da yügür-ül-idu  
 週末-複数形-位置格 森-位置格 走る-受身形-アオ  
 “週末は森で走られる”

3 アオで示されているのはアオリストの省略である。

4 ウイグル語の例はウルムチ在住のインフォーマント (55歳、男性、トウルフアン出身) によると可能である。

b. Bazı adem-ler hepteahir-ler-de orman-da yürür-idu  
 ある人-複数形 週末-複数形-位置格 森-位置格 走る-アオ  
 “ある人達は週末に森で走る”

- (8) a. Yaz veki çidir-de uhli-n-idu b. Bazı adem-ler yaz veki çidir-de uhla-ydu  
 夏の時期 テント-位置格 寝る-受身形-アオ ある人-複数形 夏の時期 テント-位置格 寝る-アオ  
 “夏の時期はテントで寝られる” “夏の時期は、ある人達はテントで寝る”

トルコ語の非能格自動詞文の非人称受動態（動作主が人間以外のもの）（不可能）

- (9) a. \*Burada havla-n-ır b. Burada köpek havla-r  
 ここで 鳴く-受身形-アオ ここで 犬 鳴く-アオ  
 “ここで鳴かれる” “ここで犬が鳴く”

(9a)の動詞が「犬が鳴く」という動作を表しているため、非人称受動態になれない。従って、非文法的である。

- (10) a. \*Buyerde miyavla-yil-idu b. Buyerde müşük miyavla-ydu  
 ここで 鳴く-受身形-アオ ここで 猫 鳴く-アオ  
 “ここで鳴かれる” “ここで猫が鳴く”

上記の(10a)の例で見られるように、ウイグル語でも非能格自動詞文の非人称受動態（動作主が人間以外のもの）は不可能である。

### 7.1.2. 非対格自動詞文の非人称受動態

- (11) a. Bu yetimhane-de çabuk büyü-n-ür (トルコ語)  
 この 養護施設-位置格 早く 育つ-受身形-アオ  
 “この養護施設で早く育たれる” (Perlmutter 1978)

b. Aile-si ol-mayan herkes bu yetimhane-de çabuk büyü-r  
 家族-三単所なる-否定連体形 みんな この養護施設-位置格 早く 育つ-アオ  
 “家族がない人々はこの養護施設で早く育つ”

(11b)に対する受動構文は(11a)で、養護施設で育てられる資格を持つ「誰でも」という事柄を表している。無論、(11a)にNtarafındanの挿入はできない。

一方、ウイグル語では、非能格自動詞文の受動化が可能であるが、非対格自動詞の受動化は不可能である。下記の例で見られるように、能動形しか表現できない。

- (12) a. \*Bu darıltan-da tez ös-ül-idu  
 この 養護施設-位置格 早く 育つ-受身形-アオ  
 “この養護施設で早く育たれる”

b. Aile-si bol-magan herkim bu darıltan-da tez ös-ıdu  
 家族-三単所 なる-否定連体形 みんな この養護施設-位置格 早く 育つ-アオ  
 “家族がない人々はこの養護施設で早く育つ”

(13) a. \*Yetmişindın keyin tez yaşın-il-ıdu  
 七十-奪格 後 早く 年を取る-受身形-アオ  
 “七十歳から早く年が取られる”

b. Herkim yetmişindın keyin tez yaşın-ıdu  
 皆 七十-奪格 後 早く 年を取る-アオ  
 “誰でも七十歳から早く年を取る”

(14) \*Burada patla-n-ır (トルコ語)  
 ここで 爆発する-受身形-アオ  
 “ここで爆発される”

(14)の動詞は無生物にしか使えない「爆発する」という非対格動詞なので、この構文も非文法的である。

(15) \*Buyerde partili-n-ıdu (ウイグル語)  
 ここで 爆発する-受身形-アオ  
 “ここで爆発される”

更に、トルコ語では、間接目的語をもつ自動詞の非人称受動態も可能である。例えば：

(16) a. Ankara'ya bu yol-dan gid-il-ir  
 アンカラ-与格 この道-奪格 行く-受身形-アオ  
 “アンカラへの行く道はこの道である/アンカラへはこの道で行くことができる”

b. Herkes Ankara'ya bu yol-dan gid-er  
 皆 アンカラ-与格 この道-奪格 行く-アオ  
 “皆がアンカラへこの道を使って行く”

(17) a. Sen-den kork-ul-ur b. Herkes sen-den kork-ar  
 あなた-奪格 怖がる-受身形-アオ 皆 あなた-奪格 怖がる-アオ  
 “あなたは恐ろしい人だ/あなたは怖がられる” “皆があなただの事を怖がる”

c. Ali sen-den kork-ar  
 アリ あなた-奪格 怖がる-アオ  
 “アリはあなただの事を怖がる”

例(16)と例(17)の(a)は一般的な事柄を述べる非人称受動構文である。例(18)はイディオム的な表現のようにもなり、誰もが恐れる人物や概念について使われるケースが多い。



- (18) Allah-tan kork-ul-ur  
 アッラー(神様)-奪格 怖がる-受身形-アオ

“誰でも神様のことを怖がる”

上記の間接目的語をもつ自動詞の例をウイグル語に当てはめてみると、(19)の例の自動詞(gitmek) (行く)は非能格自動詞であるので、ウイグル語でも非人称受動化が可能である。

- (19) a. Kashgar-ga bu yol-din ber-il-idu  
 カシュガル-与格 この道-奪格 行く-受身形-アオ

“カシュガルへの行く道はこの道である/カシュガルへはこの道で行くことができる”

- b. Herkim kashgar-ga bu yol-din bar-idu  
 皆 カシュガル-与格 この道-奪格 行く-アオ

“皆がカシュガルへこの道を使って行く”

- (20) a. Tetil kün-ler-i bu kocha-din öt-ül-idu  
 休日-複数形-三単所 この通り-奪格 通る-受身形-アオ

“休日はこの通りが使われる”

- b. Herkim tetil kün-ler-i bu kocha-din öt-idu  
 皆 休日-複数形-三単所 この通り-奪格 通る-アオ

“休日は、皆この通りを通る”

- (21) a. Yehşenbe kün-ler-i bu işik-tin kir-il-idu  
 日曜日-複数形-三単所 このドア-奪格 入る-受身形-アオ

“日曜日はこのドアが使われる”

- b. Herkim yehşenbe kün-ler-i bu işik-tin kir-idu  
 皆 日曜日-複数形-三単所 このドア-奪格 通る-アオ

“日曜日は皆このドアから入る”

一方、(22a)と(23a)の例の自動詞は非対格自動詞であるので、ウイグル語では受動化が不可能である。能動形しか表現できない。

- (22) a. \*Sen-din kork-il-idu b. Herkim sen-din kork-idu  
 あなた-奪格 怖がる-受身形-アオ 皆 あなた-奪格 怖がる-アオ

“あなたから怖がられる”

“皆があなたのことを怖がる”

- c. Āli sen-den kork-idu  
 アリ あなた-奪格 怖がる-アオ

“アリはあなたのことを怖がる”

- (23) a. \*Allah-tin kork-il-idu b. Herkim Allah-tin kork-idu  
 アッラー(神様)-奪格 怖がる-受身形-アオ 皆 アッラー-奪格 怖がる-アオ

“アッラーから怖がられる”

“誰でもアッラーのことを怖がる”

## 7.2. 他動詞の非人称受動化

### 7.2.1. 非限定目的語他動詞文の非人称受動態

- (24) a. Zehir-len-me-ler-de                      ayran<sup>5</sup>              iç-il-ir  
           害毒-再帰形-名詞化-複数形-位置格    アイラン    飲む-受身形-アオ  
           “害毒を受けた場合はアイランを飲むのが常識である”
- b. Herkes    zehir-len-me-ler-de                      ayran              iç-er  
           皆            害毒-再帰形-名詞化-複数形-位置格    アイラン    飲む-アオ  
           “害毒を受けた場合は、皆がアイランを飲む”
- c. Ali            zehir-len-me-ler-de                      ayran              iç-er  
           アリ            害毒-再帰形-名詞化-複数形-位置格    アイラン    飲む-アオ  
           “アリは害毒を受けた場合はアイランを飲む”

ここで、アイランが非限定目的語でiç-は他動詞である。(24a)に対する能動態は(24b)であり、(24c)に対する受動態は不在である。非限定目的語を持つ他動詞文の非人称受動はすべての他動詞文において作ることができる。

- (25) a. Bura-da    sigara    iç-il-mez.                      b. Bura-da    kimse sigara    iç-mez.  
           ここ-位置格    タバコ    吸う-受身形-アオ否定形                      ここ-位置格    誰も    タバコ    吸う-アオ否定形  
           “ここは禁煙です”                      “ここでは誰もタバコを吸わない”
- c. Ali            bura-da                      sigara              iç-mez  
           アリ            ここ-位置格                      タバコ              吸う-アオ否定形  
           “アリはここではタバコを吸わない”

例(25)は、トルコ語の非人称受動態を使った「禁煙」という意味を表す有名なもので、(25a)に対する能動文は(25c)ではなくて、(25b)である。つまり、「禁煙」という規則的な事実が一般常識を表す受動態(非人称受動態)を使って聞き手に伝えられる。

- (26) a. Zeher-len-gen-ler-de                      ayran              iç-il-idu (ウイグル語)  
           害毒-再帰形-名詞化-複数形-位置格    アイラン    飲む-受身形-アオ  
           “害毒を受けた場合はアイランを飲むのが常識である”
- b. Herkim    zeher-len-gen-ler-de                      ayran              iç-idu  
           皆            害毒-再帰形-名詞化-複数形-位置格    アイラン    飲む-アオ  
           “害毒を受けた場合は、皆がアイランを飲む”
- c. Āli            zeher-lengen-ler-de                      ayran              iç-idu  
           アリ            害毒-再帰形-名詞化-複数形-位置格    アイラン    飲む-アオ  
           “アリは害毒を受けた場合はアイランを飲む”

5 アイランはヨーグルトで作った飲み物で、毒物の被害を受けた人は誰でもアイランを飲むのが常識である。

- (27) a. Buyer-de tamaka çek-il-meydu                      b. Buyer-de hiçkim tamaka çek-meydu  
 ここ-位置格 タバコ 吸う-受身形-アオ否定形                      ここ-位置格 誰も タバコ 吸う-アオ否定形  
 “ここでタバコが吸われない”                      “ここでは誰もタバコを吸わない”
- c. Ali                      buyerde                      tamaka                      çek-meydu  
 アリ                      ここ-位置格                      タバコ                      吸う-アオ否定形  
 “アリはここではタバコを吸わない” (ウイグル語)

上記のウイグル語の例で見られるように、ウイグル語でも他動詞の非人称受動化は可能である。しかし、(27a)のウイグル語の例では、トルコ語と違って「禁煙」という意味を表さなくて、一般的にその場所でタバコが吸われないという意味を表す。ウイグル語で「禁煙」という規則的な事実を表す時、次のように表現される。

- (28) Buyer-de tamaka çek-işke bol-maydu.  
 ここ-位置格 タバコ 吸う-名詞化 なる-アオ否定形  
 “ここは禁煙です”

#### 7.2.2. 限定目的語他動詞文の非人称受動態 (不可能)

- (29) a. Akşam yemeğ-i pişir-il-ir, kahvaltı hazırla-n-ır  
 夜 ご飯-三単所 作る-受身形-アオ 朝御飯 整える-受身形-アオ  
 “晩御飯が作られ、朝御飯が整えられる”
- b. Biz-im ev-de akşam yemeğ-i pişir-il-ir, kahvaltı hazırla-n-ır  
 我々-属格 家-位置格 夜 御飯-三単所 作る-受身形-アオ 朝御飯 整える-受身形-アオ  
 “我が家で晩御飯が作られ、朝御飯が整えられる”
- c. Biz-im ev-de anne-m akşam yemeğ-i-ni pişir-ir,  
 我々-属格 家-位置格 母-1単所 夜御飯-三単所-対格 作る-アオ  
 babam kahvaltı-yı hazırla-r  
 父-1単所 朝御飯-対格 整える-アオ  
 “我が家で母親は晩御飯を作り、父親は朝御飯を整える”

トルコ語では、限定された目的語は限定目的語マーカー (-i, -ı, -ü, u) でマークされる。限定目的語も非限定目的語のように受動化された時主格の位置に昇格しているため限定対格の格を失う。限定対格を失ったものが主格で現れているが、文脈がない場合は元の能動文では限定された目的語かどうかは曖昧である。この曖昧性を排除するために元の構文で示されている特定の場所、特定の状況を表す必要がある。つまり、例(29c)で、父親が家事に関わっているというトルコの社会では珍しい状況が示されていることもあり、akşam yemeği (晩御飯)とkahvaltı(朝御飯)が限定目的語になっている。(29b)は、構文でbizim ev-de (我が家で) という特定の場所が残っているため、動作主が母親又

は母親以外の身内だと言うことが分かるので、行為者句不在受動態である。(29a)のように、bizim ev-de (我が家で) がない場合、つまり文脈上、動作以外の情報がない場合は非人称受動態の意味合いを持つ。つまり(29a)に対する能動文では目的語は非限定目的語であると思われる。通常、受身形+アオリストは非人称受動態の意味を持つが、特定された場所bizim ev(我が家)などが文中に現れる場合は非人称受動態の意味をもたない。(cf. Özbek2004, p.16)

一方、ウイグル語でもトルコ語と同様に文脈上、動作以外の情報がない場合は非人称受動態の意味合いを持つが、特定された場所などが文中に現れる場合は非人称受動態の意味をもたない。次の例を見てみよう。

- (30) a. Keşlik tamak-ı hazırla-n-ıdu, destirhan teyyarla-n-ıdu  
 夜 ご飯-三単所 作る-受身形-アオ 食卓 整える-受身形-アオ  
 “晩御飯が作られ、食卓が整えられる”
- b. Biz-nim öy-de keşlik tamak-ı hazırla-n-ıdu,  
 我々-属格 家-位置格 夜 御飯-三単所 作る-受身形-アオ  
 destirhan teyyarla-n-ıdu.  
 食卓 整える-受身形-アオ  
 “我が家で晩御飯が作られ、食卓が整えられる”
- c. Biz-nim öy-de ana-m keşlik tamak-i-ni hazırla-ydu,  
 我々-属格 家-位置格 母-1単所 夜御飯-三単所-対格 作る-アオ  
 açam destirhan-i teyyarla-ydu  
 姉-1単所 食卓-対格 整える-アオ  
 “我が家で母親は晩御飯を作り、姉は食卓を整える”

以上、トルコ語とウイグル語における非人称受動態の特徴を表5と表6でまとめたいと思う。

(表5) トルコ語における非人称受動態

能動態			非人称受動態	
	非限定目的語		限定目的語	
他動詞	動作主が	それら以外の	動作主が	それら以外の
	皆・誰もの場合	動作主の場合	皆・誰もの場合	動作主の場合
	○	×	×	×
	非能格自動詞		非対格自動詞	
自動詞	動作主が	それら以外の	動作主が	それら以外の
	皆・誰もの場合	動作主の場合	皆・誰もの場合	動作主の場合
	○	×	○	×

(表6) ウイグル語における非人称受動態

能動態			非人称受動態	
	非限定目的語		限定目的語	
他動詞	動作主が	それら以外の	動作主が	それら以外の
	皆・誰もの場合	動作主の場合	皆・誰もの場合	動作主の場合
	○	×	×	×
	非能格自動詞		非対格自動詞	
自動詞	動作主が	それら以外の	動作主が	それら以外の
	皆・誰もの場合	動作主の場合	皆・誰もの場合	動作主の場合
	○	×	×	×

### 8. 関係節における受動形

今までトルコ語とウイグル語の受動態と非人称受動態について述べてきた。前述したことを踏まえて、このセクションでは、トルコ語とウイグル語の関係節における受動形と特に、中央もしくは北西グループに属しているカザフ語、キルギズ語、タタル語などのチュルク語における形態論的に非顕在的な受動構造について述べたいと思う。

まず、両言語の関係節における受動形のプロセスを見てみよう。

#### 8.1. 他動詞のプロセス

前述したように、トルコ語は他動詞も自動詞も受動化できる。他動詞の受動化では、他動詞能動文の目的語であるN2が目的格の位置から主格の位置に昇格する。能動文の主体であるN1は受動化によって消え去る。しかし、 $\emptyset$ で表した場所にN1 tarafından (～によって) という後置詞句の挿入も可能である。

- (31) a. N1      N2      V                      N2                       $\emptyset$  V-pass  
 Ayşe      kapı-yı      aç-tı                      Kapı (Ayşe tarafından)      aç-ıl-dı  
 アイシェ      ドア-対格      開ける-過去形                      ドア                       $\emptyset$  開ける-受身形-過去形  
 “アイシェはドアを開けた”                      “ドアがアイシェによって開けられた”

(31 b)の例で主格の位置に昇格したKapı (ドア) という名詞を修飾したい時は、(-an, -en)の連体形で修飾できる。

- c. Aç-ıl-an                      kapı  
 開ける-受身形-an連体形      ドア  
 “開けられたドア”

他動詞能動文の中に目的語以外の補語があり、その補語を修飾する時、(-dik)または(-an)連体形で修飾できる。主格の位置に昇格した目的語が特定の目的語でそれを強調したい時は、(-dik)連体形を使い、目的語が特定ではない場合は、それを表現したい時は、(-an)連体形を使う。下記の例で見

てみよう。

- (32) a. Bir yolcu otobüs-te şemsiye unut-muş  
 一つ 乗客 バス-位置格 傘 忘れる-過去形  
 “ある乗客がバスで傘を忘れてしまったようだ”
- b. (Bir yolcu tarafından) otobüs-te şemsiye unut-ul-muş  
 (一つ 乗客 によって) バス-位置格 傘 忘れる-受身形-過去形  
 “ある乗客によってバスで傘が忘れられてしまったようだ”
- c. Şemsiye-nin unut-ul-duğ-u otobüs  
 傘-属格 忘れる-受身形-dik連体形-3人称 バス  
 “傘を忘れたバス”
- d. Şemsiye unut-ul-an otobüs  
 傘-属格 忘れる-受身形-an連体形 バス  
 “傘を忘れたバス”

一方、ウイグル語の他動詞能動文の受動化でもトルコ語と同じプロセスが見られるが、受動文の中にある補語の関係節化ではトルコ語と違って一つの連体形だけが使われる。よく知られているように、トルコ語では、一般的な規則として主語と直接目的語の関係節化が分けられている。しかし、ウイグル語では、主語と直接目的語の関係節化は同じ連体形(-gan)でされる。

- |  |     |     |   |  |     |   |        |
|--|-----|-----|---|--|-----|---|--------|
|  | N 1 | N 2 | V |  | N 2 | ø | V-pass |
|--|-----|-----|---|--|-----|---|--------|
- (33) a. Ayşe işik-ni aç-ti                      b. İşik (Ayşe tärripindin) eç-il-di  
 アイシェ ドア-対格 開ける-過去形                      ドア                      ø 開ける-受身形-過去形  
 “アイシェはドアを開けた”                      “ドアがアイシェによって開けられた”
- c. Eç-il-gan işik  
 開ける-受身形-連体形 ドア  
 “開けられたドア”

ウイグル語で他動詞能動文の中に目的語以外の補語があって、その補語を修飾する時は、一つの連体形しかないなので、次のようなプロセスが現れる。

- (34) a. Äli heridar-din pul-ni al-di  
 アリ お客さん-奪格 お金-対格 もらう-過去形  
 “アリはお客さんからお金をもらった”
- b. (Äli tärripindin) heridar-din pul el-in-di  
 (アリによって) お客さん-奪格 お金 もらう-受身形-過去形  
 “アリによってお客さんからお金がもらった”

- c. Pul el-in-gan heridar  
 お金 もらう-受身形-連体形 お客さん  
 “お金を払ったお客さん”

## 8.2. 自動詞のプロセス

- (35) a. Film-e gül-dü-k Film-e gül-ün-dü (トルコ語)  
 映画-与格 笑う-過去形-1 複所 映画-与格 笑う-受身形-過去形  
 “私達は映画を見て笑った” “映画を見て笑った”
- c. Gül-ün-en film  
 笑う-受身形-an連体形 映画  
 “笑った映画”
- (36) a. Herkes hastalık-tan kork-ar (トルコ語)  
 皆 病気-奪格 怖がる-アオ  
 “誰でも病気のことを怖がる”
- b. Hastalık-tan kork-ul-ur c. Kork-ul-an hastalık  
 病気-奪格 怖がる-受身形-アオ 怖がる-受身形-an連体形 病気  
 “誰でも病気のことを怖がる” “怖い病気”
- (37) a. Ev-e gir-di-k (トルコ語)  
 家-与格 入る-過去形-1 複所  
 “我々は家に入った”
- b. Ev-e gir-il-di c. Gir-il-en ev  
 家-与格 入る-受身形-過去形 入る-受身形-an連体形 家  
 “家に入られた” “入った家”
- (38) a. Cadde-den geç-ti-k (トルコ語)  
 通り-奪格 通る-過去形-1 複所  
 “我々は通りを通った”
- b. Cadde-den geç-il-di c. Geç-il-en cadde  
 通り-奪格 通る-受身形-過去形 通る-受身形-an連体形 通り  
 “通りが通られた” “通った通り”

上記の例で見られるように、トルコ語では、自動詞の受動化も可能である。自動詞能動文の中に主格の位置に昇格できる目的語はない。上記例文中の補語を関係節化する時は、(-an)連体形で関係節化される。他動詞のプロセスで見たように、主格の位置に昇格した目的語はないので、(-an)連体形しかできない。一方、ウイグル語では、

- (39) a. Kino-ga kül-dü-k (ウイグル語)  
 映画-与格 笑う-過去形-1 複所  
 “私達は映画を見て笑った”
- b. Kino-ga kül-ün-dü  
 映画-与格 笑う-受身形-過去形  
 “映画を見て笑った”
- c. Kül-ün-gen kino  
 笑う-受身形-連体形 映画  
 “笑った映画”
- (40) a. Herkim kisellik-tin kork-idu  
 皆 病気-奪格 怖がる-アオ  
 “誰でも病気のことを怖がる”
- b. \*Kisellik-tin kork-il-idu  
 病気-奪格 怖がる-受身形-アオ  
 “誰でも病気のことを怖がる”
- c. \*Kork-il-digan kisellik  
 怖がる-受身形-連体形 病気  
 “怖がられる病気”
- d. Kork-idigan kisellik  
 怖がる-連体形 病気  
 “怖い病気”
- (41) a. Öy-ge kir-du-k  
 家-与格 入る-過去形-1 複所  
 “我々は家に入った”
- b. Öy-ge kir-il-di  
 家-与格 入る-受身形-過去形  
 “家に入られた”
- c. Kir-il-gen öy  
 入る-受身形-連体形 家  
 “入られた家”
- (42) a. Koça-din öt-tü-k  
 通り-奪格 通る-過去形-1 複所  
 “我々は通りを通った”
- b. Koça-din öt-ül-di  
 通り-奪格 通る-受身形-過去形  
 “通りが通られた”
- c. Öt-ül-gen koça  
 通る-受身形-連体形 通り  
 “通った通り”

上記の(39,41,42)の例の動詞(Kül)(笑う)、(Kir)(入る)、(Öt)(通る)は、動作主あるいは行為者句の意志的・意図的な動きを表す非能格自動詞であるので、受動形の関係節化が可能である一方、(40)の例の動詞(Kork)(恐れる)は、動作主あるいは行為者句の意志・意図でできない動作を表す非対格自動詞であるので、受動化は不可能で、(40 d)でわかるように、能動形で表現できる。

以上、トルコ語とウイグル語の関係節における受動形をまとめると、ウイグル語の他動詞能動文の受動化ではトルコ語と同じプロセスが見られるが、受動文の中にある補語の関係節化ではトルコ語と違って一つの連体形だけが使われる。トルコ語では、主語と直接目的語の関係節化が区別されている。しかし、ウイグル語では、主語と直接目的語の関係節化は同じ連体形(-gan)でされる。自動詞のプロセスに関しては、ウイグル語では、非能格自動詞の受動化は可能であるので、受動形の関係節化は可



能であるが、トルコ語と違って非対格自動詞の受動化は不可能であるので、受動形の関係節化が能動形しかできない。

### 9. チュルク諸言語の関係節化における形態論的に非顕在的な受動構造

前のセクションでは、(-l)と(-n)の受動マーカーによって形成される受動態の主要なタイプについて述べた。しかし、特に、北西グループに属しているカザフ語、キルギス語、タタル語などのチュルク諸言語において統語論的に能動形で意味論的に受動形であるもう一つのタイプがある。Karabulut (2003)は、このタイプの構造を非顕在的な受動構造と呼んでいる。本稿も同じ用語を使うことにする。Karabulut (2003, p.255)は、非顕在的な受動構造について次のように述べている。

「チュワシ語、ウズベク語、キルギス語、タタル語、トルクメン語、アゼリ語などのいくつかのチュルク諸言語が非顕在的な受動構造を持つ。トルコ語でも制限された文脈の中でこのタイプの構造が使われるかもしれない。トルコ語、トルクメン語とアゼリ語が同じ言語グループ(オグズグループ)に属すると思われるのに、関係節におけるこのタイプの受動構造がトルクメン語では重要な役割を果たすが、アゼリ語とトルコ語に関しては同じことが言えない。この構造は特に北西グループに属しているカザフ語、キルギス語、タタル語などのチュルク諸言語と関連するようである。」次の例を考えてみよう。

- |              |     |         |                                 |     |         |
|--------------|-----|---------|---------------------------------|-----|---------|
| (43) Bar-ğan | jer | (ウズベク語) | (44) Jaz-ğan                    | qat | (キルギス語) |
| 行く-連体形       | 場所  |         | 書く-連体形                          | 手紙  |         |
| “行った場所”      |     |         | “書いた手紙” Karabulut (2003, p.257) |     |         |

上記の例で見られるように、構文は形態論的に能動形である。しかし、被修飾名詞は無生物である。(43)のウズベク語の例における被修飾名詞は方向格を表す名詞で、(44)のキルギス語の例における被修飾名詞は対格を表す名詞である。

この被修飾名詞は動作を表す動詞の主語になることができない。場所が行くことはできないし、手紙も書くことはできない。それにもかかわらず、動詞が能動形である。つまり、これらの構造はまた、形態的には能動形が用いられているが、意味的には受動態に解釈されていることがわかる。

トルコ語における同様な構文として下記の例を見てみよう。

- |                                     |           |     |
|-------------------------------------|-----------|-----|
| (45) Su                             | ak-an     | yer |
| 水                                   | 流れる-an連体形 | 場所  |
| “水が流れている場所” Karabulut (2003, p.258) |           |     |

前述したように、トルコ語では、一般的な規則として主語と直接目的語の関係節化が区別されている。主語の関係節化の場合、(-an)連体形で、目的語の関係節化の場合は、(-dik)連体形が使われる。しかし、上記の例では、Su(水)が修飾部の主語で、修飾された補語Yer(場所)は起点格目的語である。修飾された補語は主語でないのに、(-an)連体形が付いている。(8)のセクションで述べたように、

特定の主語でない場合は、(-an)連体形を使う。しかし、(45)の例は、ウズベク語とキルギス語の例と異なり、修飾部に主語があらわれている。ウズベク語とキルギス語の例と同じ例がウイグル語にもある。

- |                              |     |                 |      |
|------------------------------|-----|-----------------|------|
| (46) Bari-digan <sup>6</sup> | yol | (47) Çiki-digan | işik |
| 行く-連体形                       | 道   | 立ち去る-連体形        | ドア   |
| “行く道”                        |     | “立ち去るドア”        |      |

上のウズベク語とキルギス語、ウイグル語の例を見てみると、修飾された全ての名詞は、無生物であるので、修飾部の主語であるかどうかは意味的に簡単に判断できる。一方、修飾された名詞が人間である場合についてKarabulut (2003, p.256)は下記の例を挙げ、次のように述べている。

- |                       |              |                       |              |
|-----------------------|--------------|-----------------------|--------------|
| (48) Kôr-gen          | kişi (ウズベク語) | (49) Kur-na           | şın (チュワシユ語) |
| 見る-連体形                | 人            | 見る-連体形                | 人            |
| “(何かを)見る人 / (誰かが)見る人” |              | “(何かを)見る人 / (誰かが)見る人” |              |

「構文が能動的であるか受動的な意味であるかを決めるために、発言の文脈と聞き手または読み手の知識は非常に重要な役割を果たす。ヨハンソンは、能動分詞はしばしば特により古い言語において動詞の行為者と異なる実体を指示することがある」と述べている。

上で見たチュルク諸言語(ウズベク語、チュワシユ語、キルギス語など)と同様の例において、トルコ語では受身形でしか表現できない。

- |                  |      |                |        |
|------------------|------|----------------|--------|
| (50) Gid-il-en   | yer  | (51) Yaz-ıl-an | mektup |
| 行く-受身形-an連体形     | 場所   | 書く-受身形-an連体形   | 手紙     |
| “行かれた場所”         |      | “書かれた手紙”       |        |
| (52) Çık-ıl-acak | kapı | (53) Gör-ül-en | adam   |
| 立ち去る-受身形-acak連体形 | ドア   | 見る-受身形-an連体形   | 人      |
| “立ち去られるドア”       |      | “見られた人”        |        |

もし上のトルコ語の例を能動形の-an連体形で表現すると、下記の例で見ると、被修飾名詞が行為者になってしまう。

- |                             |      |              |        |
|-----------------------------|------|--------------|--------|
| (54) *Gid-en                | yer  | (55) *Yaz-an | mektup |
| 行く-an連体形                    | 場所   | 書く-an連体形     | 手紙     |
| “行った場所”                     |      | “書いた手紙”      |        |
| (56) *Çık-acak <sup>7</sup> | kapı | (57) Gör-en  | adam   |
| 立ち去る-acak連体形                | ドア   | 見る-an連体形     | 男      |
| “立ち去るドア”                    |      | “見た男”        |        |

6 -diganはアオリストか未来形を表すウイグル語の連体形である。

7 -acakは未来形を表すトルコ語の連体形である。

上の(54,55,56)例で被修飾名詞である(yer, mektup, kapı)は無生物で行為者になれないので、非文法的である。しかし、(57)の例の場合、被修飾名詞である(adam)は行為者になれるので、正しい表現であるが、トルコ語はキルギス語やウズベク語などと違って、一つの意味つまり、動作をする行為者という意味にしかとれない。キルギス語やウズベク語などでは、行為者か被動者かは文脈でしかわからない。

更に、上の例を-dik連体形でも表現できる。-dik連体形で表現する場合は、-dik連体形が人称接辞をとるので、キルギス語やウズベク語などと違って、動作をする行為者は特定の行為者になってしまう。次の例を見てみよう。

(58)	Git-tig-i	yer	(59)	Yaz-dig-i	mektup
	行く -dik連体形-3人称	場所		書く -dik連体形-3人称	手紙
	“彼/彼女が行った場所”			“彼/彼女が書いた手紙”	
(60)	Çık-acağ-ı	kapı	(61)	Gör-düg-ü	adam
	出る -acak連体形-3人称	ドア		見る -dik連体形-3人称	男の人
	“彼/彼女が出るドア”			“彼/彼女が見た男の人”	

上の例でわかるように、トルコ語で主語と直接目的語の関係節化が区別されている。つまり、トルコ語は文法関係をはっきりと示すのである。一方、キルギス語、ウイグル語などのチュルク諸言語では、主語と直接目的語の関係節化は同じ連体形が使われており、構文の意味に関して発言の文脈と聞き手または読み手の知識とが非常に重要な役割を果たす。

## 10. まとめ

以上、トルコ語とウイグル語における受動態の一般的な特徴や用法などを形態的及び統語論的に検討し、関係節の観点から両言語における類似点及び相違点をデータに基づいて明らかにした。特に、ウイグル語では、受動化の接尾辞は自動詞につけることができないという従来の主張に対して、ウイグル語でも、自動詞の受動化が可能であると主張した。よく知られているように、トルコ語では、他動詞も自動詞も受動化の接尾辞「-ı, -n」の付加によって受動化でき、Nakıpoğlu(2001)の表における5番の非対格自動詞以外の自動詞の受動化が許されるが、ウイグル語では、トルコ語と異なり、ただ非能格自動詞の受動化のみが可能である。これは動作主あるいは行為者句の意志性と関連があると思われる。従って、トルコ語の受動文の中で独特な特徴を持っていると言われる非人称受動に関して、ウイグル語では非能格自動詞文でのみ非人称受動化が可能である。ただし、非能格自動詞文の非人称受動化は文法的にウイグル語では可能であるが、ウイグル語話者は口語では自動詞の非人称受動化をあまり使用しない。自動詞の非人称受動化は主に文語で用いられる。非対格自動詞の非人称受動化は文語でも不可能である。

一方、関係節の観点から見ると、ウイグル語の他動詞能動文の受動化ではトルコ語と同じプロセス

が見られるが、受動文の中にある補語の関係節化ではトルコ語と異なり一つの連体形だけが使われる。よく知られているように、トルコ語では、一般的な規則として主語と直接目的語の関係節化が区別されている。しかし、ウイグル語では、主語と直接目的語の関係節化は同じ連体形(-gan)が用いられる。

また、北西グループに属しているカザフ語、キルギス語、ウイグル語、タタル語などのチュルク諸言語の関係節では二種類の受動の意味を持つ構文が現れる。一つは、(-l)と(-n)の受動マーカーによって形成される受動態の主要なタイプ、もう一つは、統語論的に能動形で意味論的に受動形であるタイプである。北西グループに属しているカザフ語、キルギス語、ウイグル語、タタル語などのチュルク諸言語は、中性の分詞マーカーにより統語論的に能動形で意味論的に受動形の関係節が構成できる。トルコ語にも類似している例があるが非常に限られている。トルコ語では、一般的な規則として主語と直接目的語の関係節化が区別されているので、上で挙げたカザフ語、ウイグル語などの例はトルコ語では受身形でしか表現できない。

#### 参考文献

- BALPINAR, Zülal 1981 "Turkish Passives; Morphosemantic and Syntactic Considerations" Doctoral Dissertation, University of Florida.
- BİKTİMİR, Tuvana 1986 "Impersonal Passives and the ArAk Construction in Turkish" in Dan I. Slobin and Karl Zimmer (Eds), *Studies in Turkish Linguistics*, John Benjamins Publishing Co. pp53-77.
- ERGİN, Muharrem 1963 "Türk Dil Bilgisi" Bayrak Basım Yayın Tanıtım, İstanbul.
- ERKMAN-AKERSON, Fatma OZIL, Seyda. 1998 "Türkçede Niteleme, Sıfat İşlevli Yan Tümceler". Simurg Kitapçılık ve Yayıncılık Limited Şirketi.
- JOHANSON, Lars & CSATÓ, Éva. 1998 "The Structure of Turkic", in *The Turkic Languages*, (ed), Routledge: London and New York.
- KARABULUT, Ferhat 2003 "Relative Clause Constructions in Kazakh" UMI Dissertation Services.
- MILİKADAM, Süreyya 2004 「ウイグル語における受動態と使役態」修士論文、社会文化科学研究科、岡山大学
- NAKIPOĞLU-Demiralp, Mine 2001 "The referential properties of the implicit arguments of impersonal passive constructions" in Eser Erguvanlı TAYLAN (Ed) (2001) "The Verb in Turkish". John Benjamins Publishing Company pp129-150.
- ÖZBEK, Aydın 2004 「トルコ語と日本語における使役受動態について」修士論文、社会文化科学研究科、岡山大学
- ÖZKARAGÖZ, İnci 1986 "Monoclausal Double Passives in Turkish" in Dan I. Slobin and Karl Zimmer (Eds), *Studies in Turkish Linguistics*, John Benjamins Publishing Co. pp77-93.

- ÖZTÜRK, Rıdvan 1994 "Yeni Uyğur Türkçesi grameri" Türk Dil Kurumu Yayınlar.
- PERLMUTTER, David M. 1978 "Impersonal Passives and the Unaccusative Hypothesis," BLS4.
- SEPER, Süleyman. 2002 "Hazırqi zaman uyğurtili", Shinjan halık nâşriyati.
- TÖMÜR, Hâmit. 1987 "Hazırqi zaman uyğurtili grammatikisi", millâtlâr nâşriyati.
- TÖMÜR, Hâmit. 2003 "Modern uyğur Grammar", Yıldız dil ve edebiyat, İstanbul.